

# 厨房機器とIoKをつなぐ情報通信機器の開発

井川 翔太（いがわ しょうた）株式会社扶洋 営業推進グループ 課長

**要約** 一般社団法人日本エレクトロヒートセンター（以下、JEHC）が運営する共通プラットフォーム「インターネットオプキッチンプラットフォーム（以下、本PF）へ、複数のメーカーが製造する業務用厨房機器のリアルタイムデータを送信する際に、厨房施設内でデータを集約し一元的にアップロードする機能をもった装置が求められる。業務用厨房機器と本PFをつなぎ、安全かつ効率的にアップロードする際に重要な役割を担う情報通信機器「集中管理装置」の開発について本稿でご紹介する。

## 1. はじめに

株式会社扶洋は昭和22年（西暦1947年）に創業し情報・環境・生産分野における幅広いジャンルを網羅する技術商社として、多くのパートナー企業と連携し、柔軟な発想と組合せにより「お客様のニーズに最適」なソリューションをご提案している。厨房業界では、一般社団法人日本厨房工業会の会員企業として業務用厨房機器の取扱いを通じ「食の安全・安心」「高効率・省エネ」を促進している。本PFにおいては2019年から「集中管理装置」の取扱商社として製品開発に携わり、ビジネス化を推進している。

## 2. 集中管理装置とは

本稿でご紹介する集中管理装置とは厨房施設内の多種多様な厨房機器からリアルタイムにデータを収集し、本PFに一元的にアップロードする情報通信機器を指す。厨房施設には様々なメーカーの多種多様な厨房機器が存在しており、それらが個別にデータ送信することは非効率である。また、メーカーごと、機器ごとに送信手順が異なることも考えられるため、収集データを一元的に管理することは難しいと考えられる。そこで厨房機器と本PF間のゲートウェイとなる集中管理装置が、JEHC策定の「業務用厨房機器標準通信仕様」に準拠した厨房機器からデータを収集し一括送信を行うことで、安全かつ効率的につなげることが可能である。（図1）

以降で、集中管理装置での新規参入を検討されてい

る方向けに開発時のポイントをご紹介する。

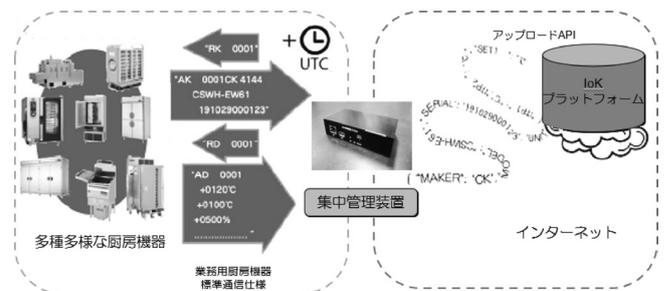


図1 機器データの流れ

## 3. 集中管理装置の開発に際して

本PFに接続可能な集中管理装置の開発に際して、登録にはJEHCとの利用契約が必要となる。

稼働させる集中管理装置が「集中管理装置仕様書」に適合していること、及び検査結果報告の手引きに基づき通信等が正常に行われること等を検査し、検査結果報告書をJEHCに提出する。JEHCが適合と判断した場合、当該集中管理装置を接続可能にする。登録申請、秘密保持契約の締結及び登録手続きの完了により利用契約が締結されたものとする。

### 3.1 集中管理装置の機能要件

#### (1) ハードウェア

厨房施設の規模により自在なハードウェア選定が可能。

#### (2) サンプリング間隔

集中管理装置は厨房機器に対して、通常1分に一度標準通信仕様のモニタデータ読み出し要求コマンドで